

風紋

vol.66 2020 / Summer

鳥取大学広報誌 FU-MON

エスディー・ジーズ
鳥大SDGs 特集

大学の教育・研究を 世界の課題解決へ

注目の
研究

限りある水資源を有効活用し
食料危機を回避する！

私たちの
研究室

地域学部地域学科人間形成コース
鈴木研究室

羽ばたく
卒業生

社会で活躍する先輩たちに今を聞く！

教養の場

教養科目「鳥取を知る」

新任教員
紹介

研究推進機構 研究戦略室



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

1 貧困をなくそう 	2 飢餓をゼロに 	3 すべての人に健康と福祉を
4 質の高い教育をみんなに 	5 ジェンダー平等を実現しよう 	6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	8 働きがいも経済成長も 	9 産業と技術革新の基盤をつくろう
10 人や国の不平等をなくそう 	11 住み続けられるまちづくりを 	12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を 	14 海の豊かさを守ろう 	15 陸の豊かさも守ろう
16 平和と公正をすべての人に 	17 パートナーシップで目標を達成しよう 	

SDGsとは

Sustainable Development Goals

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までの国際目標。世界193カ国が合意し、達成することを目標としています。

その内容は、貧困や健康、教育などをターゲットにしたもの、エネルギーや働きがい、経済成長などをテーマにしたもの、気候変動など環境に関するものなど、開発途上国や先進国だけの話ではなく、さまざまな課題を包括的に捉えており、SDGsへの取り組みは世界的な広がりを見せています。

次ページからそれぞれの事例がどの『開発目標』に当てはまるか、写真下部にアイコンで表示しています

鳥大SDGs 特集

大学の教育・研究を世界の課題解決へ



みんなで取り組みれば
きっと世界は変わっていく

「持続可能な開発目標(SDGs)」は、2015年の国連サミットで採択された、2030年までに世界が目指す目標です。グローバル化が進み世界が一体となりつつある中で、全人類が共通の目標を定め活動していくことは大変意義のあることです。今を生きる私たちは、世界のために何ができるのか。SDGsは、日々の生活を振り返り進む道を考える上での、具体的な指針となります。

鳥取大学では、憲章の中で「グローバル時代を迎えて、多様な文化や考え方があることを理解し、少数者や厳しい条件下におかれていた人々に対する思いやりの心を持ち、社会に対する責任を果たすことを行動の規範とする」としています。そして基本理念である「知と実践の融合」のもとに、人々が安心して暮らすことができる未来を創るため、「社会の中核となり得る教養豊かな人材の育成」「地球規模及び社会的課題の解決に向けた先端的研究の推進」「国際・地域社会への貢

献及び地域との融合」を目標としています。

本学の使命は、SDGsの課題を理解して解決できる能力を身に付けた人材の育成と、地球上で発生している社会・経済・環境における課題を克服する研究の推進です。そして、高い倫理性を身に付けた優秀な人材を輩出を通して世界に貢献していきたいと考えています。また地域の知の拠点として、地域の方々や協働し、SDGsの達成を目指す役割も果たしていきます。

本学のSDGsの達成に向けた取り組みをホームページに掲載しています(注)。学外の方々には本学の教育、研究、社会貢献の取り組みについて具体的にご覧いただくことができ、私たちに与りましても全学的な活動の状況を理解し、今後の進んでいく道を見つめ直すよい機会となっています。本学の取り組み事例をいくつかご紹介いたします。

(注) <https://www.tottori-u.ac.jp/sdgs/>

事例 「輸入感染症」の震源地 東南アジアで学ぶ

世界の現場で学び 感染症の脅威を軽減する

新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、「パンデミック」と呼ばれ、世界を巻き込むウイルス感染症の問題の大きさを実感させています。

感染症の脅威を、医療（予防・診断・治療）によって軽減するために、アジア諸国・日本の双方に持続可能な医療のシナリオを作りたいと考えています。その担い手となるべき人材育成方法として、3つの要素を考えています。第1に、感染症の震源地である現場で学ぶ。将来活躍する現場を知ることは必須です。第2に、現地の医療機関を知り、共同作業を試みる。教育の一端として現地の病院で診療研修をすることで、感染症の課題と解決方法を学ぶ絶好の機会になります。第3に、国際機関の存在を知る。世界保健機関や日本の国際協力機構にお世話になり、訪問の機会を設けています。

国際的な課題をどのように解決するか。課題を抱える現場で、多国籍の人々と共に学ぶ喜びがそこにはあります。



急な感染者数の増加は珍しいが、屋外に設置された麻疹診療室



かけやま せいじ
景山 誠二 教授
医学部 医学科



モスクワ医科歯科大学の若手医師3名の受け入れ (2017.10)



なかむら ひろしげ
中村 廣繁 教授
医学部 医学科

事例 ロシアとの医療・環境分野の協力とモスクワ医科歯科大学との学術協定に基づく若手医師の相互交流

ロシアと日本の共同研究で お互いの持続的な発展を目指す

鳥取県とロシアは幅広い分野で交流が進んでいます。医学部も2014年にウラジオストクの太平洋医科大学と学術協定を締結し、活発な交流を行ってきました。そして、2016年5月にはモスクワ医科歯科大学主催の学術フォーラムに招かれたことを契機に、同年11月に学術協定を締結しました。これまで若手医師を中心に3回の受け入れ、1回の派遣を行い、最新の医療技術や基礎研究、教育などについて交流を深めました。

また、近年日露友好が進展する中で新たに提示された8項目の「協力プラン」のうち、鳥取県では医療と環境分野に焦点を当て、鳥取県内の企業と協力し2019年2月にモスクワを訪れました。そこではモスクワ医科歯科大学、Rファーマ社などとビジネスコンサルティングミーティングを行い、お互いの実績をアピールし共同研究やビジネスチャンスを拡大しました。健康、福祉、教育、経済、技術革新、国際化、住みよい社会、リサイクル、パートナーシップといった広域の分野でお互いが持続的に発展できる枠組みを目指しています。

事例 持続可能で住みよい都市の在り方に関する国際比較研究

安心して住み続けられるまちづくりを

日本の地方都市では、人口減少や高齢化に伴う地域の衰退や日常生活の不便さが問題になっています。こうした問題は先進国の多くでもみられます。他方、途上国では急速な都市化や計画性の乏しい資源開発によって、健全な生活環境を維持できていない地域が拡大しています。これらの問題の解決は、21世紀における喫緊の課題となっています。私たちは、住みよい都市(リバブル・シティ)を目指し、世界のさまざまな取り組みを比較検討し、日本の都市の住みよさの向上に貢献しています。

事例 子どもアドボカシーシステム構築への取り組み

子どもの声に耳を傾け、その想いを大切にする

子どもアドボカシーとは、不利や差別を受けやすい子どもたちの声を聴き、その声を表に出し、本人の意思決定を促すコミュニティの変革過程です。子どもアドボカシーシステムの実証化を研究するため、カナダ・オンタリオ州子どもアドボカシー事務所と交流を重ねています。昨年はカナダから元事務所長を招いて国際シンポジウムを開催し、それを契機に、社会的養護各施設の子どもたち・鳥取大学・行政などが協同して「子どもの声を表に出す」パイロットプログラムを始めようとしています。

事例 東アジアプロジェクト

国の違いを越えてお互いに支え合い、理解する

海外で言葉や生活習慣を壁と感ぜないで一步を踏み出し、必要な言語と知識、現地感覚を持って行動できる人を育成する「東アジアプロジェクト」を進めています。プログラムは4つあり、中国・台湾・韓国・香港の学生を地域学部で迎えるプログラムと、中国・台湾・韓国での海外プログラムです。1週間～10日間、海外の学生たちと共に過ごし、地域の歴史や文化に触れて濃密な時間を過ごします。そしていつしか国の違いを越えて、「東アジア」が親しい顔に見える、生きた世界になっていくのです。



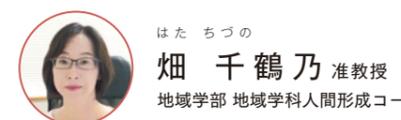
世界のリバブルシティのお手本となったカナダ・バンクーバー



やました ひろき
山下 博樹 教授
地域学部 地域学科地域創造コース



国際シンポジウム「子どもの声からはじまる未来～ Have a voice, To our future～」in 鳥取大学 (2019.12)



はた ちづの
畑 千鶴乃 准教授
地域学部 地域学科人間形成コース



2019年度台湾プログラム(九份)



ユウ ショウア
柳 静我 准教授
地域学部 地域学科国際地域文化コース

詳しくはこちら!



詳しくはこちら!



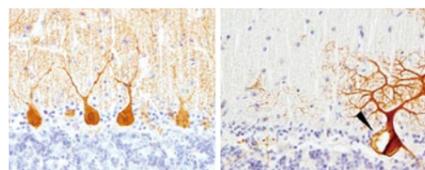
事例

地球温暖化とモンゴル国の家畜の病気

家畜の病気の原因を明らかにし 現地の獣医師の技術向上を図る

近年、地球温暖化を背景とした砂漠化・異常気象、家畜の過放牧などによりモンゴル国における砂塵嵐(黄砂の発生源)および耐乾燥性の毒草の繁茂が問題になっています。これまでに、砂塵の吸入による呼吸器系の傷害や、耐乾燥性の毒草 *Oxytropis glabra* による中毒が、モンゴル国の家畜(羊、山羊など)に生じていることを明らかにしました(モンゴル生命科学大学獣医学研究所との共同調査)。

これらの疾患要因は、動物だけでなく人の健康にも影響を与える可能性があるため、疾患の存在を明らかにすることは重要です。モンゴル国では、家畜が感染性疾患や中毒性疾患に罹患して死亡するケースが増加傾向にあることから、疾病の種類、その背景にある基礎疾患の解明が強く求められています。今後も現地獣医師の病気の診断技術向上に寄与すべく、家畜の疾患の共同調査を実施していきます。



毒草 *Oxytropis glabra* の摂取による山羊の中毒 (写真左)健康山羊の小脳 (写真右)中毒例:小脳の細胞の脱落、空胞化



もりた たけひと
森田 剛仁 教授
農学部 共同獣医学科

事例

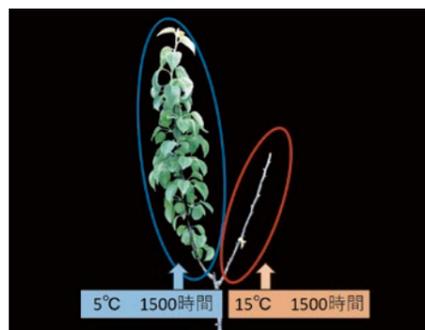
ニホンナシの自発休眠機構の解明と新品種の育成

附属農場の遺伝資源を活用し 気候変動に対応した新品種を開発

ニホンナシをはじめとする落葉果樹の芽は、冬季に「自発休眠」と呼ばれる休眠状態に入り、一定量の低温に遭遇することで翌春に開花することが可能となります。しかしながら近年の温暖化の影響により、世界の低緯度地域ならびに日本の西南暖地では、低温遭遇量の不足による開花不良が多発しており、ニホンナシの栽培が困難になっています。

そこで、自発休眠の生理・生化学的な機構解明を進めるとともに、少ない低温遭遇量でも安定的に開花する新品種の育成と、優良個体を早期に選抜するDNAマーカーの開発を行っています。

新品種の育成では、農学部の附属大塚農場で栽培されている遺伝資源を有効に活用。現在、附属農場では国内外から集めた約300品種の遺伝資源を保有しており、自発休眠の深度が浅いタイワンナシを活用して、温暖化に対応できる新たなニホンナシ品種の育成を進めています。また、各品種の栽培適地の評価にも着手し、気候変動に伴う具体的な対策も行っています。



ナシの開花・萌芽には、一定量の低温積算が必要 (撮影:田村文男教授)



たけむら よしひろ
竹村 圭弘 講師
農学部 生命環境農学科

事例

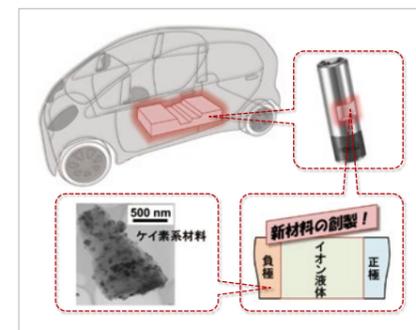
エネルギーの有効利用に関わる化学や材料の技術についての教育

持続的発展に重要な化学技術を 超領域的に学ぶ

環境を意識した視点からエネルギーの創造や有効利用に関する知識を身につけるため、大学院持続性社会創生科学研究科の共通科目で「エネルギー化学特論」の講義を開講しています。エネルギーの有効利用に関わる化学や材料の技術、二酸化炭素排出など、エネルギーの使用が地球環境に及ぼす影響を学び、人類の持続的発展のための方法を考える材料とすることを目指しています。

そのため、人類が生き延びるために本当に重要な科学技術を学び、さらに自分の研究課題に活用できる講義内容となっています。具体的な項目は、「水素エネルギーとは何か」「水素貯蔵材料とエネルギー変換機能」「蓄電池」「化石燃料の有効利用率向上」「生物を含む自然由来エネルギーの有効利用率向上」「蛍光体とレーザー」「半導体と発光ダイオード」です。

幅広い分野をカバーするため、「無機化学」「物理化学」「分析化学」「電気化学」「触媒化学」「無機材料化学」などを担当する3人の教授が上記の項目を分担して講述しています。



次世代蓄電池(エネルギー変換・貯蔵)



さかくち ひろき

坂口 裕樹 教授 工学部 化学バイオ系学科

かただ なおのぶ

片田 直伸 教授 工学部 化学バイオ系学科

ますい としゆき

増井 敏行 教授 工学部 化学バイオ系学科

事例

買い物弱者をなくすための持続可能な移動販売サービスの開発

移動販売サービスで 地域の健康で文化的な生活を支援

車の運転免許を持たない高齢者には、外出をして買い物することに身体的な負担を感じる方がいらっしゃいます。また、感染症の流行などで、高齢者でなくても遠方への外出が制限されることもあります。このため、移動販売や買い物代行のサービスが再評価されています。中でも移動販売は、単に食料を供給するのではなく、商品を選ぶ楽しさや、ちょっとした運動、会話の機会を提供します。しかし、人口減少が進む中、サービスの継続は困難な状況にあります。

本研究では、健康で文化的な生活を支援するサービスとして移動販売を位置づけ、その持続可能性を高めるビジネスモデルを検討するとともに、それを行政、企業、地域住民が協働して社会へ実装していくことを促進するための研究を行っています。

具体的には、①移動販売サービスの利用者数の予測、②食料供給以外のサービスとの統合の可能性の評価、③地域と協働した新たな供給体制の検討を行っています。



食料供給以外にも様々なサービスを統合して供給している先進的な移動販売サービス



たにもと けいし
谷本 圭志 教授
工学部 社会システム土木系学科

詳しくはこちら!



詳しくはこちら!



注目の研究

限りある水資源を有効活用し 食料危機を回避する！



やまだ さとし
山田 智 教授
農学部生命環境農学科

専門 植物栄養学
趣味 池造り

地球の陸地の約40%を占める乾燥地。乾燥地では地下水の塩分濃度が上昇し、作物の生産性が急速に低下しています。私たちは、養殖と農業を結合したアクアポニックスにより、水質の改善と安定的な食料生産の実現に挑んでいます。

乾燥地での食料生産量が減少

乾燥地とは、降雨量が少なく、また降水量より蒸発量の方が多いため、土壌に含まれる水分も少ない地域のことです。一方で日射量が多く、平坦で広大な土地があることから、穀物などの農作物を生産し、世界の食料生産を担っている重要な地域でもあります。しかし、もともと水資源が乏しい上に、過剰な灌漑〔注1〕や施肥により土壌の塩類化〔注2〕が進行し、同時に地下水の塩分濃度が上昇することでさらに塩類化が進み、作物の生産性が減少するという負の連鎖に陥っています。

今後増加し続けると思われる人類の生活を支えるには、広大な乾燥地における革新的な食料生産技術の開発が不可欠です。そこで、私たちは水の有効活用と土壌の塩類化防止の双方を実現するべく、乾燥地に適した新しいアクアポニックスの開発に取り組んでいます。

アクアポニックスは、アクアカルチャー（養殖）とハイドロポニックス（水耕栽培）を合わせた造語として30年以上前に生まれた食料生産システムです。養殖される魚などの排泄物を微生物が分解し、それを植物が養分として利用する仕組みで、私たちはこ

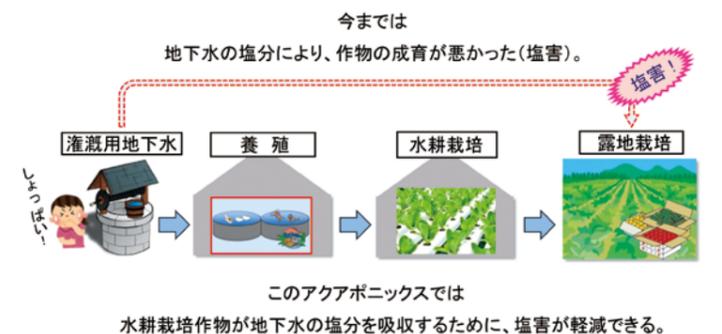


図1 露地栽培結合型アクアポニックスの概念図

新しいアクアポニックスを開発

のアクアポニックスに着目しました。乾燥地の塩分濃度の高い地下水を利用して養殖、水耕栽培を行い、さらに露地栽培まで行う露地栽培結合型アクアポニックス(図1)の実証研究を、現在、メキシコで行っています。

メキシコは国土の約半分が乾燥地であり、土壌の塩類化が深刻な問題になっています。鳥取大学は東京海洋大学とメキシコ北西部生物学研究セ

立と市場への出荷を目指しています。

また、水耕栽培についても、化学肥料を使わず、魚の排泄物や消費されなかった餌などの有機物を養分とする栽培方法をアピールし、有機認証を取得したいと考えています。有機認証により作物に付加価値をつけることで、農家の収益アップを図ります。

露地栽培結合型アクアポニックスは、水を土壌に返すまでに、養殖、水耕栽培、露地栽培と3回も食料生産に使う生産性の高いシステムです。さらに塩類化した土地を徐々にきれいにして水資源の改善も図れる持続可能な農水産業です。このシステムを世界各地の乾燥地に広め、安全な水と安定した食料生産に貢献できることを願います。今日も研究に取り組んでいます。

〔注1〕灌漑
用水路や排水路、溜め池、ダムなどを使って人工的に農地に水を供給すること。

〔注2〕塩類化
水の蒸発により、耕作地の土壌表層に塩類が蓄積すること。

〔注3〕SATREPS
科学技術振興機構（JST）が環境・エネルギー、防災、感染症などの地球規模課題について、国際協力機構（JICA）と連携して、日本と開発途上国との国際共同研究を推進するプログラム。



写真1 露地栽培結合型アクアポニックスの全電力を賄う太陽光発電システム



写真2 塩分を吸収して成長する好塩性作物

ンター（CIBNOR）と共同でプロジェクトを立ち上げました。地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）〔注3〕に採択され、現地に露地栽培結合型アクアポニックスの試験用モデルを建設して、平成27（2015）年度から本格的に取り組んでいます。

試験用モデルでは、塩分を含む水でも成育可能な魚やエビなどを飼育し、養殖に使用した水を生物ろ過槽で適切に処理した後、隣の水耕栽培施設へと移します。水耕栽培では、塩分を

吸収して成長する好塩性作物を育てることで、水中に含まれる塩分の除去を図ります。施設内に蒸発した水を除湿器で回収し、好塩性作物により塩分が吸収された水と合わせ、塩分濃度の低い水にして、最後に露地栽培に使用します。低塩化した水を露地栽培に用いることで土壌の塩類化を防ぐとともに、やがては地下水の塩分濃度の低下にもつながると期待しています。

へき地でも運用できるように、使用するエネルギーは敷地内に設置した太陽光発電システムで自給自足して

安全な水と食料の確保を実現

将来的に、この新しいアクアポニックスを乾燥地で普及させるためには、施設の運営費やスタッフの人件費などを賄いつつも、確実に収益を得られるような農水産物をつくる必要があります。

アクアポニックスの養殖でよく用いられるティラピアは、飼育はしやすいですが販売価格が安価でした。そこで、試験用モデルでは、ティラピアとともに、日本でも食べられているバナメイエビと、ホワイト・スヌークという塩分濃度が低い水でも飼育可能な海水魚を試験的に飼育しています。ティラピアの販売価格に比べて、バナメイエビは約5倍の値段で取り引きされており、ホワイト・スヌークも高級魚として知られており、養殖技術の確



地域学部地域学科人間形成コース

鈴木研究室

担当教員 鈴木 慎一郎 准教授

音楽を知り、音楽を奏で、音楽を伝える

古くから歌い継がれてきた民謡、郷愁を誘う童謡・唱歌、即興性を楽しむJAZZ、時代を表す流行歌など、人は生きるステージに合わせて何かしらの音楽と共に歩んできた。そんな音楽の魅力を広く伝える方法を多方面から検証しているのが、鈴木研究室だ。

研究室には自然と音楽好きな学生たちが集まってくる。みんなで歌を歌うこともあるというゼミには穏やかで明るい雰囲気が満ち、それぞれが楽器を奏でたり、好きなジャンルの音楽を調べたりと、特性を生かして興味のある分野をイキイキと探求する。研究の内容は、文献調査などの歴史研究に留まらず、自ら演奏したCDや音楽と映像を合わせたDVDを作製したり、考案した音楽教育のプログラムを附属学校園で実践したりと幅広く、その成果は実際の教育現場にも影響を与えている。

2年次にグループで取り組む地域調査プロジェクトでは、浜村温泉に伝わる《貝殻節》や、吉岡温泉の宣伝歌である《吉岡小唄》を調査したり、子ども向けの音楽イベントを開催したりして、地域と音楽のつながりも深めている。

＼直近5年以内の／ 卒業生の主な進路

小学校教諭(鳥取県・兵庫県)、公立保育士(鳥取市・東伯郡湯梨浜町・兵庫県西宮市・愛媛県四国中央市)、新聞記者(日本海新聞)、アシスタントディレクター



子ども向けの音楽イベント(令和元年11月)

《貝殻節》を通じて日本の民謡を 次世代へと継承していく

現代の多くの子どもたちにとって、民謡や童謡・唱歌は身近な存在ではなくなってきたといえます。しかし、今、「日本の歌」が見直されてきています。

日本の歌を代表する一つである新民謡「注」に、浜村温泉の宣伝歌としてレコード化された《貝殻節》があります。当研究室での貝殻節の研究は2013年度の地域調査プロジェクトから始まりました。学生と一緒に浜村温泉に足を運び、初年度には観光協会の方からSPレコードをお借りして、貴重な音源を手に入れることができました。以来、貝殻節の歴史とその特徴を探り、さらに多方面へと研究を進めています。

浜村温泉と賀露に着目した調査は実施済ですが、今後はさらに他の地域の貝殻節とも比較する予定です。将来的にはその違いを音楽デジタル教科書に掲載するなどして、日本の民謡の学習がさらに深まることを期待するとともに、地域の財産としても継承していきたいと考えています。

【注】新民謡
大正末から昭和初期にかけて、各地の伝承民謡に似せて、その地区の特徴・観光地・名産品などを盛り込み、作詞・作曲された唄。

今、何を 研究してる



いわたに えりな
岩谷 英里菜さん
大学院持続性社会創生科学研究科
地域学専攻人間形成コース 2年

音楽鑑賞の教材を開発し、 教育の現場で生かしたい！

小さい頃から音楽が好きで、音楽に関する研究がしたいと思っていました。学部の卒業研究では、特別支援学校小学部の児童を対象に、スライドを使用した音の出る紙芝居のような音楽鑑賞の教材を開発し、授業実践をしました。大学院では、その成果と課題から、視覚化されていて、ストーリー性があり、内容に曲の意図が含まれている劇音楽、特にバレエに着目し、障がいのある児童もそうでない児童も同じ場所で同じ内容を学ぶインクルーシブ教育システムでの音楽鑑賞の教材を開発しています。また、デジタル教科書の活用も検討中です。



貝殻節は浜村温泉だけでなく、鳥取市内の賀露や青谷、湯梨浜町の泊や橋津、北栄町の妻波などにも存在しますが、その音楽や歌詞は異なり、まさに民謡の地域性の特徴がみられます。これだけ限られた範囲で地域により独自性が見られるのは全国的にも珍しいと思われ、地域学部附属芸術文化センターの西岡千秋教授と共同で、地域性にも着目しながら、貝殻節を現代に歌い継ぐための再発見イベントも計画しています。

海の男たちの魂がこもった 山陰を代表する民謡

豪快な海で働く漁夫たちの労働唄

貝殻節は、鳥取県の代表的な民謡。いつ頃から歌われたかは不明だが、漁夫の作業唄として古くから根付いていた。当時行われていたジョレン(馬鐮用の漁具)に網をつけた舟で底曳きし、板屋貝(帆立貝)を獲る作業は実につらく、漁夫たちは貝殻節を愛誦して過酷な労働に耐えていた。

しかし、板屋貝が獲れなくなると、貝殻節はブリ網漁法の舟唄として歌い継がれる。やがて手漕ぎの船から発動機船に変わり、漁夫が重労働から解放されると次第に歌われなくなっていった。

新民謡として発売され全国で人気に

昭和の初めから広まった新民謡運動に、浜村温泉でも温泉の宣伝歌を作ることになり、当時、鳥取県師範学校附属小学校訓導であった三上留吉が、地元の漁師から教えてもらった貝殻節を採譜して編曲。浜村出身で市役所にいた松本穂葉子が浜村温泉の宣伝歌の歌詞を補い、昭和8年(1933)に、《新民謡 貝殻節》としてコロムビアからSPレコードが発売された。昭和27年(1952)には朝日放送全国民謡大会で第1位となり、全国にも知られるようになる。浜村温泉では毎年8月に貝殻節をテーマにした「貝がら節祭り」が開催されている。



▲《新民謡 貝殻節》のSPレコード
▲「貝がら節祭り」に参加した際、浜村駅で撮影



貝殻節の歴史



地域学部



PROFILE

たにくち みさ

谷口 美紗さん

鳥取県庁 県民参画協働課 勤務
地域政策学科
平成29年度卒業

県民参画協働課に所属。主にNPO法人の活動推進や、行政と民間の協働事業を支援する取り組みを行っています。

在

学中の思い出として印象深いのは、倉吉の「わいわい淀屋」という地域イベントに参加したこと。地域の輪に混ざり、一緒にやって地域づくりをしたという経験が、鳥取への愛着をより深め、鳥取県庁で働こうという思いにつながりました。鳥取県庁では最初の2年間統計課に所属した後、現在の職場になりました。統計は政策の指標や地域の特色を表すものとして使われ、社会的貢献活動を行うNPOは地域にとって欠かせない存在です。どれも地域政策に大きく関わっているものであり、大学での学びや経験は現在の仕事につな



がっていると感じます。もちろん大学時代には想像していませんが、幅広い業務にも関わること、新しい知識や経験も沢山得ることができました。これから出会う様々な出来事に対しても積極的にチャレンジしていきたい、住みよい鳥取県づくりができるよう、成長していけたらと思います。

工学部



PROFILE

あらい よしひと

荒井 良仁さん

雪印メグミルク株式会社 阿見工場 勤務
持続性社会創生科学研究科
博士前期課程 工学専攻化学バイオコース
平成30年度修了

生産現場にてチーズの製造業務を行っています。お客さまに安心・安全に召し上がっていただけるように、品質の高い製品を生産しております。

私

は入学前まで夢や目標が曖昧でしたが、入学後はさまざまなことに興味を持ち始め、その一つがヨット部に入部したことです。ヨットの楽しさやチームワークの大切さを知り、また、かけがえない友人を得ることができ、入部して本当に良かったと思っています。

います。工場は検品作業などのルーティンワークだと思われがちですが、意外にもデスクワークが多く、チームワークや微生物の知識も必要とされ、やりがいのある仕事です。皆さまにも大学でさまざまなことに挑戦し、視野を広げて将来を歩んでほしいと願っています。

4年生になると微生物酵素に関する研究に真摯に取り組

みました。内容が難しく理解

するのに苦労しましたが、研

究していく内に興味深くな

り、この経験が微生物と密に

関わる食品メーカーを志した

キッカケとなっています。

現在は製造業務に携わって



卒業生たちは今を聞く!



卒業生から「メッセージ」が届きました。社会で活躍する先輩たち

医学部



PROFILE

おおいし ともかず

大石 智一さん

公益財団法人 微生物化学研究会
微生物化学研究所 勤務
生命科学科
平成11年度卒業

がんを治せる薬をつくりたい——。がんの“性格”を理解する基礎研究や、がん転移抑制を目指した創薬研究を行っています。

多

くのがんは薬では根治できません。そう知ったのは高校時代、祖父ががんに罹患したときでした。科学は早いぶん進歩したと思っていた私はショックを受け、がんの治療法を開発する研究者を志しました。

生命科学科ではまず、さまざまな疾患について最先端の知識や研究手法を広く学びました。4年生で配属された研究室では、大腸がんの治療モデルを使った卒業研究に没頭しました。この時期に、研究や部活(水泳部)を通して出会った恩師や友人の存在が、今も自分を導いてくれる大きな糧となっています。



私は現在、がんの転移予防につながる薬の開発を進めています。転移は死亡に直結します。転移を抑制できれば、多くの命を救えるはずです。幸い祖父は手術によってがんを克服しました。しかし、手術で治せるがんばかりではありません。がんで苦しみ悩んでいる患者さんたちを笑顔にできる日を夢見て、今後も研究に邁進してまいります。

農学部



PROFILE

やまだ たかゆき

山田 高之さん

鳥取県園芸試験場 環境研究室 勤務
生物源環境学科
植物菌類資源科学コース
平成27年度卒業

果樹(特に病害分野)を担当し、「新規殺菌剤の効果確認」や「果樹病害の防除対策」等に関する試験を行っています。

私

は鳥取県で生まれ育ち、自然豊かな故郷で「自然や生物」に関わることを学びたいと思い、鳥取大学農学部へ進学しました。2年生までは幅広く農学分野を学びましたが、やはり専門分野を選択した研究室配属後がより充実していたように思います。私の研究室では、指導教員の丁寧な指導の下で糸状菌(カビ)に係る基礎知識や技術を学びました。また、この頃から併行して公務員講座を受講し、県職員を目指しました。入庁後は、園芸試験場に配属され、主にナシ病害の防除に関する業務に当たっています。試験場の情報は、栽培現

場への影響力が大きいことから、その発信には責任が求められると思います。一方で、農家の方々から感謝される機会も多く、やりがいも大きい仕事です。社会人になり、自分なりの目標を持つことが仕事に対する自信や熱意につながると感じています。皆さんもそれぞれの目標に向かって充実した学生生活を送っていただければ幸いです。



新任教員紹介

MEET OUR NEW TEACHERS

私の主な仕事は、大学の知的財産のオープン&クローズ戦略を踏ることと知的財産教育です。特許をはじめとする知的財産を出願し、もしくは秘匿し、大学の知的財産をライセンスや譲渡により実装化することにより、大学の社会貢献の一端

を担っています。また、これらに付随する契約締結における法的アドバイスをも行っています。「知之者不如好之者 好之者不如樂之者」これは孔子の『論語』雍也第六で、「これを知る者は之れを好む者に如かず。之れを好む者は之れを楽しむ者に如かず」といい、物事への関わりは知、好、楽を経て深まり、自由になることを意味しています。大学では学問や研究において「ワクワク感」や「楽しい」ということをぜひ経験してほしい、異なるものが融合して何か新しいものが生み出される「創発」の体験を重ねてほしいです。そのような場や機会を少しでも多く提供することが、寄り道や道草をしてきた者だからこそできることではないかと思っています。

「理科の実験がしたいから」という志望動機で大学を選び、「研究所なら実験できる」という理由で就職し、途中「法律の世界って面白そう」と、興味を持った方向に進んできました。今こうして鳥取大学にいるのも、芥川龍之介の『侏儒の言葉・西方の人』の「運命は偶然よりも必然である。運命は性格の中にある」という言葉は決して等閑に生まれたものではない。」という言葉どおりなのかもしれません。

「知之者不如好之者 好之者不如樂之者」これは孔子の『論語』雍也第六で、「これを知る者は之れを好む者に如かず。之れを好む者は之れを楽しむ者に如かず」といい、物事への関わりは知、好、楽を経て深まり、自由になることを意味しています。大学では学問や研究において「ワクワク感」や「楽しい」ということをぜひ経験してほしい、異なるものが融合して何か新しいものが生み出される「創発」の体験を重ねてほしいです。そのような場や機会を少しでも多く提供することが、寄り道や道草をしてきた者だからこそできることではないかと思っています。

知之者不如好之者 好之者不如樂之者



鳥取大学着任日：2019年10月1日

研究推進機構 研究戦略室
産学連携オフィス

いなおか みえこ
稲岡 美恵子 教授

専門 知的財産法(特許法)
趣味 温泉巡り+おいしい食べ物/美術鑑賞と近代建築散歩鑑賞



鳥取大学着任日：2020年2月1日

研究推進機構 研究戦略室
URAオフィス

ほさか りわこ
保坂 理和子 URA助教

専門 社会学(法務)/人文学(英語、教育)/大学経営政策
趣味 映画やお芝居をみる/海めぐり/旅

All things are in a state of flux.

「ソクラテスメソッド」という手法があります。ギリシャの哲学者ソクラテスが市民との対話に用いた問答法です。私の在籍した大規模ロースクールでは、公法、民事系、刑事系、国際法など、あらゆるジャンルの法律問題について、事例研究による教員と学生の徹底した議論・問答で授業が進められました。真剣勝負なので前日までの膨大な準備資料の読み込みは必須、授業後は山のような課題レポート。夜は遅くまで掛け持ちの自主ゼミで、学生同士がテーマを決めてライティングと講評会。文字どおり徹底的に鍛えられました。学部時代は映画に音楽三昧、シェイクスピアやワーズワースの詩を読み海外の旅を満喫し、長く

高校で英語の教鞭を執っていた私は、ちよつと大学院でのんびりできるかと思いきや一変、今度は若い同級生からたくさんの方のことを教わる立場になりました。今も懐かしく得難いこの貴重な経験が、改めて大学の面白さを教えてくれました。その後は医学系、人文学系、工学系、先端技術系の大規模研究で法務博士(専門職)として戦略策定・研究管理・企画立案などを担当、東京藝術大学で芸術と先端科学技術の共創プロジェクトを経て、自然豊かな鳥取への万物流転。一期一会。また沢山の素敵な出会いを楽しみにしています。

教養の場

現代社会で 生きる力を磨く

豊かな教養と幅広い視野を備えた
素敵な大人になるための
『全学共通科目』を
ピックアップしてご紹介します。



鳥取を知る

鳥取県外の入学生が約80%います。「せっかく鳥取に来んさっただけえ〜、鳥取の魅力を知って卒業しんさいな〜」の想いで「鳥取を知る」を開設しています。地域への貢献、伝統文化、民芸などを話題にできる学生を目指しています。

担当教員
ごとう かずお
後藤 和雄 准教授
教育支援・国際交流推進機構
教育センター



受講した学生の声
もち ゆうま
茂箆 佑真 さん
農学部生命環境農学科 2年

- この授業を選んだ理由は？
学外から鳥取県職員、鳥取県警察本部、元鳥取県知事・元総務大臣を講師に招きオムニバス形式で講義していただくということで、普段は聴くことができない話が聴けると思い選びました。評価方法がレポート形式であったことも良かったです。
- 授業を受けた感想は？
鳥取大学のことはもちろん、鳥取県に関することをさまざまな観点から学びました。県外出身の私は知らないことが多く、大変興味深い内容でした。鳥取県について知りたい方には特におすすめの講義だと思います。

広く深く知る鳥取の魅力
2019年10月後期から、オムニバス(教員や学部テーマを毎回変えた講義を纏めた)形式の科目として新しく開設し、砂丘(観光可能では日本最大)だけではない鳥取の価値ある有形・無形の財産を学びます。学長・理事・学部長からは、鳥取大学の歩みと教育および鳥取県教育の歴史について、地域の持続性および世界の発展に貢献する特色のある研究について、鳥取の自然について、「鳥取」の魅力を学びます。学外の方々もお迎えし、民芸、祭り・行事、歴史・文化、国宝、世界遺産ならぬ「世間遺産」※、因幡の白兔や大山に纏わる古事記の神話など、多彩な鳥取の歴史・文化・芸術および遺産を学びます。

民主的な地方自治の運営に重要な視点を客員教授の片山善博先生から学び、安全・安心な県を目指す活動と施策を鳥取県警察本部から学びます。多彩な講師から、様々な観点・視点から「鳥取」を学び、鳥取の魅力を知ります。故郷の魅力をも見つめ直せ、新しい発見もでき、Sense of proportion(状況に応じた何が一番大切かを判断する能力)も得られます。最後に、難敵な新型コロナウイルス(COVID-19)終息が見通せない中、エヴァンゲリオン(Evangelion)よりeu+知らせangelion)が早く聞けることを祈り、多くの学生が受講することを祈ります。Engage!

※世間で昔、広く使われていたり、作成したりしていた生活道具などの貴重な財産のこと

紙製フェイスシールドを地元企業と開発

2020.5.7



新型コロナウイルスの感染拡大を受けた医療資材不足の解消を目的に、医学部附属病院が使い捨て可能な紙製フェイスシールド「ORIGAMI(おりがみ)」を本学発ベンチャー企業の株式会社メディピート、地元企業の有株式会社サンバック、ヤマサデザインと共同開発しました。

医学部附属病院新規医療研究推進センターの藤井政至助教が東京の医療機関の物資不足の現状を聞き、課題解決のため紙製のフェイスシールドを考案し、地元企業の協力を得て製品化につなげたもので、この開発により感染拡大地域で不足するフェイスシールドを低コストで素早く提供できることが期待されます。

一部の科目で対面授業が開始

2020.6.25



本学では、新型コロナウイルス感染症対策として、4月22日からの授業をWeb等を活用した遠隔授業(オンライン授業)のみで実施していましたが、米子キャンパスは6月8日から、鳥取キャンパスは6月25日から一部の科目で対面授業を開始しました。6月26日に開講した農学部専門科目「栽培学概論」では、1年生ら約200名の学生が受講。授業を受ける際には、手洗い、マスクの着用、ソーシャルディスタンスの確保、4部屋に分散して受講するなどの感染防止策を徹底した上で行われました。直接講義が受けられて、友達とも会うことができうれしそうな学生の姿が見られました。

WHAT'S NEW?

大学の動き

在学生の活躍や大学の取り組みなど、鳥取大学の最新情報をご紹介します。

日南町から本学学生へお米の贈り物

2020.6.16-18



本学の連携自治体の鳥取県日南町から、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い苦しい生活を強いられている学生を支援するため、日南町産コシヒカリ300kgが寄贈されました。

「鳥大生にお腹いっぱいご飯を食べてもらいたい!」との思いから寄贈されたお米は、鳥取大学生協の協力により炊き込みご飯などに調理され、鳥取・米子の両キャンパスで学生に配布されました。作りたての温かいご飯を受け取った学生は、「大変な時なので助かります」とうれしそうに持ち帰っていました。また、配布場所に設置されたメッセージボードには、日南町や生協への感謝の言葉が多く寄せられました。

どうなってる?

コロナ禍における鳥大生の就職活動

2021年卒業・修了学生の就職活動状況

当初は、2020年2月頃から内々定の取得報告が届くなど前年度同様に上々の滑り出しでしたが、3月になると状況が一変。新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大により学内外の企業説明会は軒並み中止となり、学生は企業との接点が減少しました。しかし、代わってWebを用いた説明会や面接が広く普及し、これまでとは異なった形式の就職活動が展開されました。6月上旬からは徐々に内々定の取得報告が増えています。

本学キャリアセンターが実施したWebアンケートでは、回答者のうち、就職を希望する学生(約400名)の約6割が内々定を取得していることが分かっています(7/8現在)。その一方で、新型コロナウイルスの影響により思うような就職活動ができてい



ない、準備不足のため初動が遅れてしまったという学生も。1人で悩まず、ぜひキャリアセンターに相談してください。

インターンシップ

近年、実に多くの企業がインターンシップの機会を提供しています。それを活用して本学では参加者が増加しており、昨年度は延べ約400件の参加がありました。インターンシップに参加することで、参加した企業の理解を深めることができ、結果として就職活動に寄与したという意見もあります。また、大手就職ナビ業者のアンケートでは、インターンシップを採用活動の一環と捉えている企業が増えているとの報告も。人気の企業では、インターンシップに参加することも難しいケースがありますので、なるべく早く準備に取りかかりましょう。

Web面接をうまく使いこなし、満足のいく就活に!

コロナ禍により、私の就職活動はWeb面接がメインとなりました。一番苦労したのは、面接官の雰囲気が分かりにくいということ。面接官が画面外から音声のみで質問してきたことがあったのですが、どんな表情なのか分からず、話を続けるべきか迷うことがありました。また、面接中に画面がフリーズしたことも。アピール時間は減るし、焦ってうまく話せなくなるので、大変でした。

しかし交通費の出費がなく、面接日がかぶっても時間をずらして1日に幾つも受けることができたので、結果的にはWeb面接で良かったと感じました。

就活生の声



ほしの こういちろう

星野 浩一郎さん
農学部共同獣医学科 6年
内定企業/東レ株式会社

キャリアセンターを
活用しよう!

本学キャリアセンターでは、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を十分に取しながら、対面での就職相談を行っています。Web相談も可能ですので、必要とされる場合はご相談ください。

- 鳥取キャンパス 共通教育棟B棟1階(平日のみ11:00~17:00)
- 米子キャンパス 学務課学生係(平日のみ10:15~17:00)

詳しくはWebへ
大学教育支援・国際交流推進機構キャリアセンター
<https://www.tottori-u.ac.jp/2376.htm>



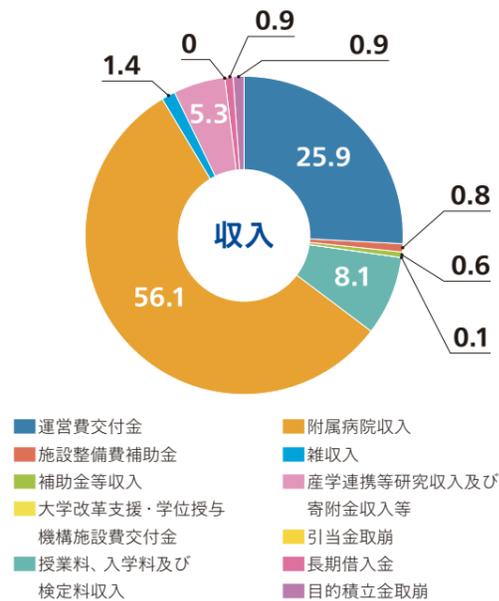
大学からのお知らせ

INFORMATION

【令和元年度決算額】

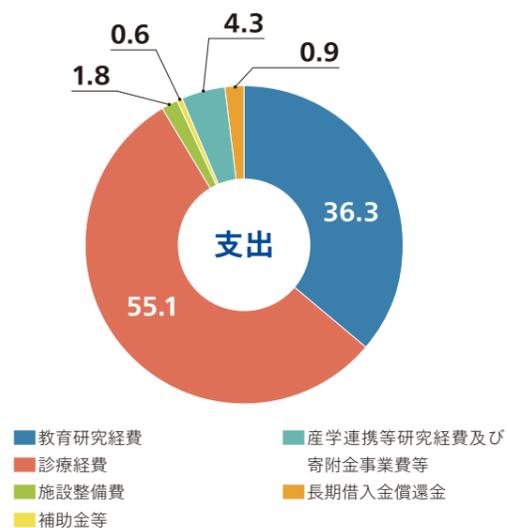
■収入

区分	決算額 (百万円)
運営費交付金	10,764
施設整備費補助金	318
補助金等収入	231
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	34
自己収入	27,238
授業料、入学金及び検定料収入	3,348
内訳 附属病院収入	23,312
雑収入	577
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	2,191
引当金取崩	10
長期借入金	377
目的積立金取崩	366
合計	41,533



■支出

区分	決算額 (百万円)
業務費	37,303
内訳 教育研究経費	14,813
診療経費	22,490
施設整備費	730
補助金等	231
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	1,771
長期借入金償還金	784
合計	40,821



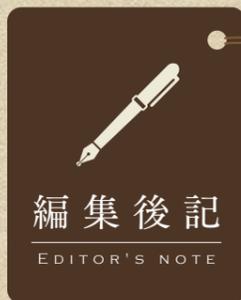
※百万円未満は切り捨てであるため、合計額とその内訳に差異が生ずる

毎回、多くの方にご回答いただいております。読者アンケートでは、「鳥取大学独自の研究を知りたい」とのご意見が多数寄せられていたこともあり、本号の「特集」では、本学のSDGsの取り組みを取り上げました。

また、「鳥取県ならではの鳥取の魅力」をいっている視点から学ぶことができる「鳥取を知る」という授業を、「私たちの研究室」では、県内の浜村温泉に伝わる「貝殻節」を紹介しています。県外出身者が多い本学の学生には、ぜひとも県内の歴史・文化に触れてほしいと思います。

なお、本号の制作にあたりましては、新型コロナウイルス感染症の不安が広がる中、予防・対策に万全を期した上で編集・取材等を行いました。引き続き、本誌「風紋」を皆さまにお届けできるよう、最善を尽くしてまいりますので、何卒よろしくお願いたします。本号も最後までご覧いただきましてありがとうございます。

(Y・Y)



サークル一覧 『鳥取キャンパス』篇

学生生活で学ぶことは学問ではありません。鳥取大学には学生が行う自主的な課外活動として、さまざまなサークルがあり、仲間同士で共通の目標に向かって活動しています。

体育系		文化系	
合気道部	馬術部	吹奏楽団ウインドアンサンブル	フォークソング部
アイスホッケー部	バスケットボール部(男子)	JAZZ & FUSION研究会	美術部
アメリカンフットボール部	バスケットボール部(女子)	SF研究会	落語研究会
弓道部	バドミントン部	ギターアンサンブル部	ボランティアサークル
競技スキー部	バレーボール部	書道部	文芸部
剣道部	ハングライダー部	演劇サークル	邦楽友の会
硬式庭球部	ハンドボール部	奇術部	放送部
硬式野球部	フットサル部FC.GC.	混声合唱団フィルコール	マンドリンクラブ
ゴルフ部	ヨット部	競技麻雀研究会	クッキングサークルKCC
サーフィン部	陸上競技部	児童文化研究会	環境意識向上サークルe心
サイクリング部	ライフセービング部	軽音楽部	鳥大ローバース
サッカー部	ラグビー部	献血推進サークル白うさぎ	森友
自動車部	医進バレーボール同好会(VTEC)	競技かるたサークル	アカペラサークル
柔道部	フットサルサークル キャッツアイ	コミック・イラスト研究会	風紋祭実行委員会
準硬式野球部	スポーツライミングサークル	写真部	バルーンアート&ジャグリングサークル
少林寺拳法部	第3バスケットボール部	茶道部	法学研究会
水泳部	バスケットボール同好会	手話サークル	ボードゲーム研究会
漕艇部	居合道同好会	フィルハーモニー管弦楽団	料理サークルふぁみーゆ
ソフトテニス部	ワンダーフォーゲル部	鉄道研究会	映画研究会
ソフトボール部	Tiny dogS(硬式テニスサークル)	障害児教育研究会	ポレポレキッズ☆
体操競技部	non-pits(ストリートダンスサークル)	将棋部	日本野生動物医学学生会鳥取支部
卓球部	L.Cat(ソフトテニスサークル)	人形劇研究会	e-Sportsサークル
探検部	スクーパーダイビングサークル	電子計算機研究会	ものづくりサークルびいす工房
ダンス部	バドミントンサークル Marrei	天文研究会	
軟式野球部			

※色つきのサークルは体育会所属



競技かるたサークル



フィルハーモニー管弦楽団



読者アンケートにご協力いただいた方へ
プレゼントが当たる!

今後のよりよい誌面作りのために、皆様からのご意見やご要望をお待ちしています。アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で5名様にプレゼントを進呈いたします。

アンケートのご回答はこちらから

プレゼント応募締切 | **10/31(土)**

※ご記入いただいた個人情報はプレゼントの発送以外には使用いたしません。
また、当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。



とりりんぬいぐるみ!

鳥取大学のイメージ
キャラクター、「とりりん」です!

抽選で
5名様にプレゼント!




挑む、創る、未来

TOTTORI BANK  青い鳥の銀行です。
鳥取銀行

人を想う。未来を創る。

enetopia

鳥取ガス株式会社
鳥取ガス産業株式会社

エネトピアグループはガスや電気、通信だけではなく、地域活性のためのエネルギーもご提供いたします。
私たちと共にエネルギーの種を届けませんか?

HPIはこちらから 

マイナビはこちらから 

人を想う。未来を創る。

enetopia

株式会社とっとり市民電力

私たちは
地域に根差した
エネルギー事業者として、
地域の発展に貢献してまいります

HPIはこちらから 

風紋のバックナンバーは、こちらから 
www.tottori-u.ac.jp/fumon

 鳥取大学広報誌

鳥取大学に関するお問い合わせ

- 入学試験 0857-31-5061
 - 公開講座・社会貢献 0857-31-6777
 - 授業料納入 0857-31-5029
 - 研究・産官学連携 0857-31-5608
 - 学生・学生生活 0857-31-5053
 - 学生就職支援 0857-31-5456
- その他はホームページ <https://www.tottori-u.ac.jp/ask/> をご覧ください



編集発行 / 広報委員会広報誌編集専門委員会

2020年8月発行

會見忠則 (委員長・農学部) 武田信吾 (地域学部) 西村正広 (医学部) 塩崎一郎 (工学部)
 辻 渉 (農学部) 滝波稚子 (教育支援・国際交流推進機構) 保坂理和子 (研究推進機構) 米本善則 (総務企画課)

〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南4-101 TEL.0857-31-5006 FAX.0857-31-5018
[E-メール] toridai-kouhou@ml.adm.tottori-u.ac.jp [ホームページ] <https://www.tottori-u.ac.jp/>